



会議レポート

ACM SIGIR 2016 参加報告

SIGIR とは

SIGIR (シグアイアール) は Special Interest Group on Information Retrieval の略であり、情報検索の研究コミュニティである。SIGIR が毎年夏に開催するトップカンファレンスもまた SIGIR と呼ぶ。実行委員会は今年選挙により刷新され、新体制の委員長には Diane Kelly 教授 (University of North Carolina at Chapel Hill) が就任した。なお、SIGIR が直接主催する小規模な会議として、ICTIR (International Conference on the Theory of Information Retrieval) および CHIIR (Conference on Human Information Interaction and Retrieval) がある。

SIGIR 2016 について

SIGIR 2016 は斜塔で有名なイタリア・ピサで開催された。空港から街の中心部まで 30 分強で歩ける小さな街である。今年は約 570 名の参加があり、うち学生は 3 割程度であった。

口頭発表のセッション名で比較的目的新しいものとしては Speech and Conversation Systems や Privacy, Advertising and Products などがあった。特に深層学習や人工知能に関連する前者に関しては、今後さらに注目が集まるだろう。これに関しては、筆者による CIKM 2015 参加報告¹⁾ もご覧いただきたい。

最近のフルペーパー採択率の目安は 20% であり、今年 は $62/341=18.2\%$ であった。一方、ショートペーパー採択率は $104/339=30.7\%$ であった。例年、フルペーパーには口頭発表、ショートペーパーにはポスター発表の機会が与えられる。近年の投稿数は、フルペーパーが減少傾向、ショートペーパーが増加傾向にある。この原因としては、数年前よりフルペーパー、ショートペーパーのページ上限がそれぞれ 8 ページから 10 ページに、2 ページから 4 ページに増えたことと、ICTIR や CHIIR をは

じめ情報検索研究の成果発表の場が分散したことが考えられる。筆者も情報検索評価方法に関するフルペーパー 2 件およびショートペーパー 1 件を発表した。また、本会議 3 日目にセッション座長を務めた。

SIGIR では毎年 best paper 賞が 1 件授与されるが、その筆頭受賞者が学生でない場合は別途 best student paper 賞が 1 件授与される。また、最近では約 10 年前 (今回の場合 2004 ~ 2006 年) の論文から test of time 賞を 1 件選出している²⁾。さらに、今年に限り、test of time 賞発足以前 (2001 年以前) のすべての論文を対象とした賞が 30 件授与された。この選考には筆者もかかわったが、大変な作業であった。受賞論文の詳細については Web ページ^{☆1} をご参照いただきたい。

筆者は初日のチュートリアルや最終日のワークショップには参加できなかったが、深層学習の情報検索への応用などのトピックが注目を集めているようであった。本会議における基調講演者の 1 人 Christopher Manning 教授 (Stanford University) も「深層学習は情報検索にも改革をもたらす」という主旨の発言をされていた。なお、筆者は Springer の論文誌 IRJ (Information Retrieval Journal) の共同編集長として、SIGIR 2016 で人気の高かった Neural Information Retrieval ワークショップなどをもとに特集号を企画する予定である。また今後、論文誌 ACM TOIS (Transactions on Information Systems) への採録が決まった著者には、直近の SIGIR・ICTIR・CHIIR のいずれかで口頭発表の機会が与えられることが決まった。

SIGIR の今後

筆者が共同ジェネラルチェアを務める SIGIR 2017^{☆2} は日本初の SIGIR である。会場は新宿の京王プラザホテル^{☆3}。バンクエット会場はホテル椿山荘東京^{☆4} である。日本からの多くの優れた論文の投稿と参加を期待する。

SIGIR 2018 は米ミシガン州アン・アーバーでの開催が、SIGIR 2019 は仏パリでの開催が決定している。SIGIR 2020 については中国・杭州、中国・西安、インドネシア・バリ島、UAE・ドバイが誘致活動中である。

参考文献

- 1) 酒井哲也 : CIKM 2015 参加報告, DBSJ Newsletter 8(5), 2015, <http://dbsj.org/dbjapan/2015/msg00241.html>
- 2) 酒井哲也 : 会議レポート : ACM SIGIR 2014 参加報告, 情報処理, Vol.55, No.10, p.1158 (Oct. 2014).

(酒井哲也 / 早稲田大学)

☆1 <http://sigir.org/awards/>

☆2 <http://sigir.org/sigir2017/>

☆3 <http://www.keioplaza.co.jp/>

☆4 <http://hotel-chinzanso-tokyo.jp/>